

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-50631

(43)公開日 平成6年(1994)7月12日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

A 6 1 G 7/00

7/08

審査請求 未請求 請求項の数2(全2頁)

(21)出願番号 実願平4-87966

(22)出願日 平成4年(1992)12月22日

(71)出願人 592263366

渡辺 繁男

岡山県川上郡川上町大字臘敷1355-1

(72)考案者 渡辺 繁男

岡山県川上郡川上町大字臘敷1355-1

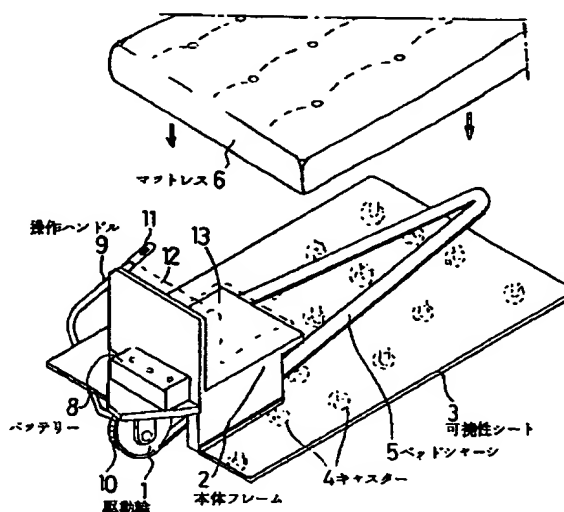
(74)代理人 弁理士 森 廣三郎

## (54)【考案の名称】 自走式療養ベッド

## (57)【要約】

【目的】 下半身不随になったり、立ち居振舞ができない患者でも、介護者等の手助けを必要としないで移動できる自走式療養ベッドを提供する。

【構成】 枕部又は座部となり駆動輪1を備えた本体フレーム2と、それから連続するゴムマット等の可撓性シート3下面に複数個備えたキャスター4により支持されたベッドシャーシ5と該ベッドシャーシ5上のマットレス6とからなる自走式療養ベッドである。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 枕部又は座部となり駆動輪 1 を備えた本体フレーム 2 と、それから連続するゴムマット等の可撓性シート 3 下面に複数個備えたキャスター 4 により支持されたベッドシャーシ 5 と、該ベッドシャーシ 5 上のマットレス 6 とからなる自走式療養ベッド。

【請求項 2】 請求項 1 記載の駆動輪 1 はモータ 7 とバッテリー 8 とにより駆動され、かつ、駆動輪の操作ハンドル 9 を備えてなる自走式療養ベッド。

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案の自走式療養ベッドの斜視図である。

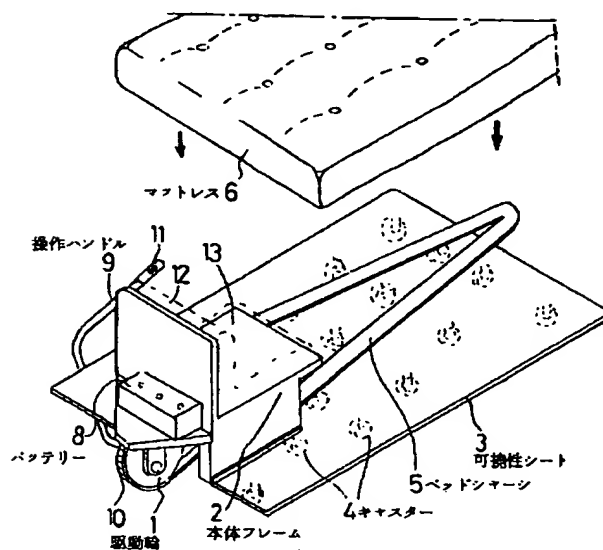
【図 2】 本考案の自走式療養ベッドの正面図である。

【図 3】 本考案の自走式療養ベッドの右側面図である。

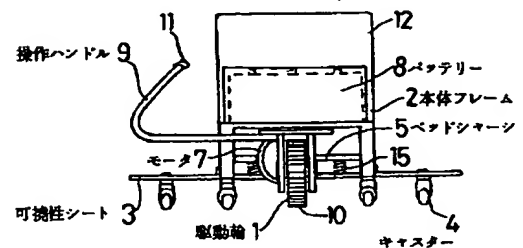
## 【符号の説明】

- 1 駆動輪
- 2 本体フレーム
- 3 可撓性シート
- 4 キャスター
- 5 ベッドシャーシ
- 6 マットレス
- 7 モータ
- 8 バッテリー
- 9 操作ハンドル

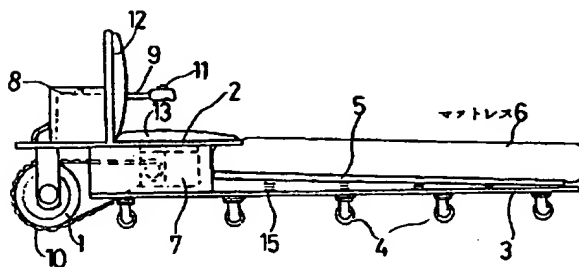
【図 1】



【図 2】



【図 3】



## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、歩行困難な老人や身体障害者等のための自走式療養ベッドに関するもので、手が自由であれば自分で操縦して移動可能なものの提供を目的とする。

【0002】

## 【従来の技術】

従来、患者が座って移動する車椅子は自走式であるが、ベッドに寝たまま自走式となっているものはほとんど見当らない。療養ベッドもキャスタ付で移動の容易なものもあるが、すべて介護人による移動である。これは、自走式にして療養者のハンドル操作にまかすことは、極めて危険を伴う構造であり、かつ、大型のベッド形状のものである。

【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

そこで本考案者は、下半身不随になったり、立ち居振舞ができない患者でも、介護者等の手助けを必要としないで移動できるようにしようとするものである。

【0004】

## 【課題を解決するための手段】

本考案は、枕部又は座部となり駆動輪1を備えた本体フレーム2と、それから連続するゴムマット等の可撓性シート3下面に複数個備えたキャスター4により支持されたベッドシャーシ5と、そのベッドシャーシ5上のマットレス6とからなる自走式療養ベッドである。

【0005】

この場合に駆動輪1はモータ7とバッテリー8とにより駆動され、かつ、駆動輪の操作ハンドル9を備えた構造が好ましい。

【0006】

## 【作用】

本体フレーム2が枕部又は座部となり駆動輪1を備えているので、使用者(患者)は下半身をマットレス6に横たえた状態であっても、上半身、特に手さえ使

えれば希望の場所へ移動することができる。下半身を支えるマットレスは下方床面からの衝撃を吸収して使用者に苦痛を与えないようにすると共に、弾性を発揮して楽な姿勢をとることを可能とする。更に、マットレスは可撓性シート3下面にキャスター4を複数個設けているので、地面に傾斜や凹凸があっても容易な移動を可能とする。

#### 【0007】

##### 【実施例】

図1は本考案の自走式療養ベッドの斜視図であり、図2は正面図、図3は右側面図である。これらの図により明らかなように、本考案の自走式療養ベッドは、前部は本体フレーム2の下方へ駆動輪1を備え、これをフレーム下方に設けたモータ7とキャタピラベルト10で連結すると共に、モータ7をバッテリー8により回転するようにしている。駆動輪1には操作ハンドル9が操縦できるように取付けられている。操作ハンドル9にはスイッチ11があつて、その操作によって前後動及び停止が可能となる。

#### 【0008】

駆動輪1が設けられた本体フレーム2の後方上部には、背もたれ12と枕部13又は座部となる部分があり、その下方はキャスター4によって支えられている。本体フレーム2の後方は連続してマットレス6があり、身体を横たえることができるようになっている。マットレス6には可撓性シート3であるゴムマットがほぼマットレスの底面をカバーするサイズで設けられ、その底面には複数のキャスター4がほぼ全域に配設されている。その上方へ複数のコイルスプリング15を介してベッドシャーシ5があつて、その上へマットレス6が支持されている。また、バックミラーや壁等への接近を知らせるセンサなどは任意に設置できる。

#### 【0009】

##### 【考案の効果】

本考案の自走式療養ベッドは以上のような構造であるから、下半身不随になったり、立ち居振舞ができない患者でも、操作ハンドル9さえ操作できれば、下半身は横たえた状態のままでも介護者等の手助けを必要としないで希望の場所へ移動できる。これにより、介護人の省力化も可能となった。